

平成30年9月2日(日)

しばやまいせき 芝山遺跡 (第17・18次) ・ しばやまこふんぐん 芝山古墳群 (G・L地区) 現地説明会資料

調査場所 城陽市富野中ノ芝ほか
 調査期間 G地区；平成29年4月17日～8月25日
 L地区；平成30年2月8日～9月4日(予定)

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
 〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
 URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

1. はじめに

芝山遺跡は、城陽市東部に広がる丘陵上に位置し、東西約950m、南北約840mの範囲と考えられています。今までに16回の発掘調査が行われており、古墳や奈良時代の掘立柱建物、道路状遺構などが調査されています。道路状遺構は400m以上にわたって一直線に伸びていると推測され、平城京と北陸を結ぶ奈良時代の北陸道ではないかと推定されています。平成14・15年度に調査した南北方向の建物群は「駅家」(主要な諸道に設けられた役所で、宿舎や運搬のための馬を提供した)と考えられています。

一方、芝山古墳群は古墳時代前期から後期の中小の古墳からなる古墳群で、梅の子塚1号墳(前方後円墳、全長87m、前期)や同2号墳(前方後円墳、全長65m、前期)も同じ丘陵上に築造されています。また、遺跡の南側には、縄文時代後期の集落などが見つかった国史跡森山遺跡があります(第1図)。

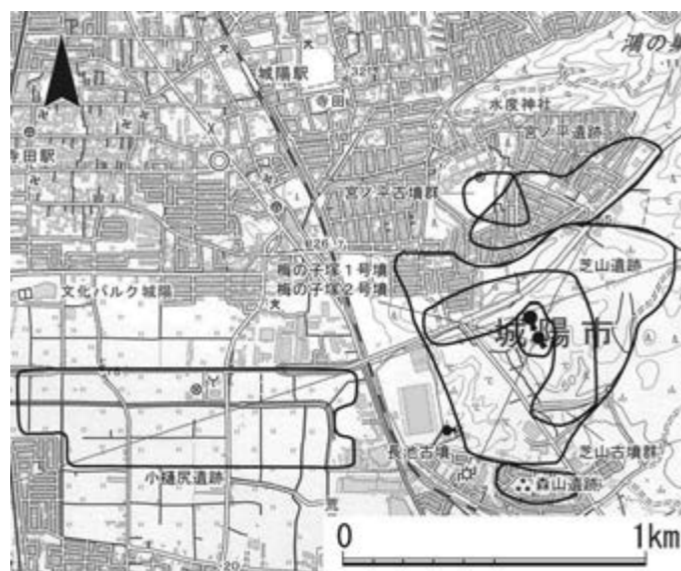
新名神高速道路整備事業に伴い、平成27年度から発掘調査を実施しており、今回はL地区の調査と、G地区で検出した古墳の成果を中心に報告します。

2. 調査の概要

(1) L地区の調査 (第3図)

L地区の調査では、古墳時代の円墳1基、飛鳥時代の竪穴建物3基、奈良時代の掘立柱建物10棟を検出しました。

古墳1 (写真1・2) 直径9.5mの円墳で、幅約

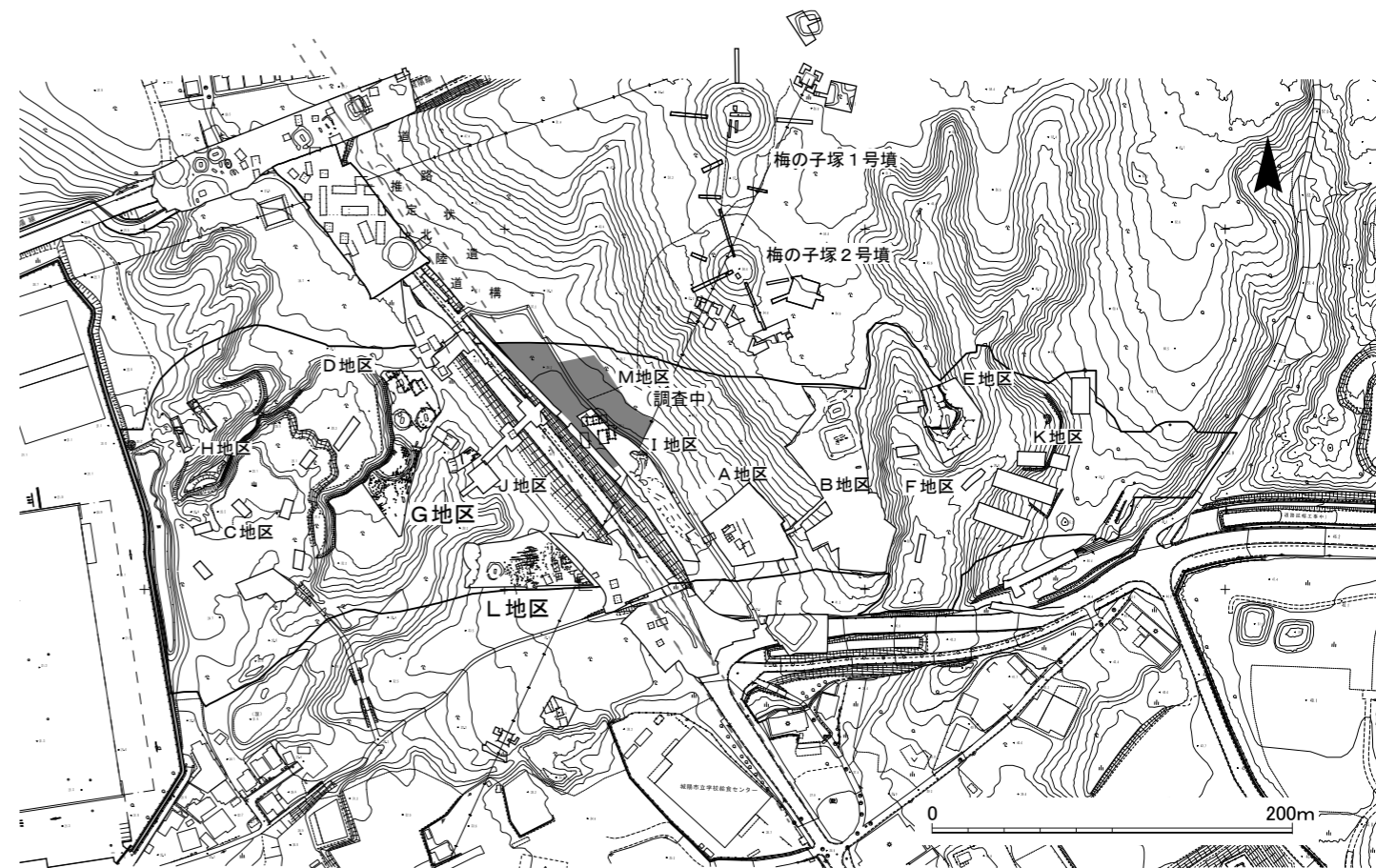


第1図 調査地位置図および周辺遺跡分布図
(1/25,000 宇治)

1mの溝(周溝)が巡ります。墳丘のほぼ中央で埋葬施設を1基検出しました。全長2.4m、幅1.1mの墓穴(墓壇)のなかに、木製の棺(木棺)が納められていたと考えられます。木棺小口の外側に須恵器壺1点、棺の長辺に沿った外側に鉄製の矢じり2本が置かれ、棺の蓋の上に須恵器の杯1点と蓋4点が置かれていました。出土遺物から、6世紀後半の古墳と考えられます。

竪穴建物 竪穴建物とは、地面を掘り下げた床面を屋根で覆った建物のことで、飛鳥時代の方形の竪穴建物を3基確認しました。いずれも大きく後世に削られており、5cm程度の深さしか残っていませんでした。

掘立柱建物 10棟を復元することができました。これらの建物は、互いに近接していることや建物方位が異なっていることから、すべて同時に建っていたのではなく、数時期に分かれていたと考え



第2図 芝山遺跡検出遺構配置図

られます。主軸を基にすると、5群に分けられます。
 I群 主軸方向がほぼ真北を向く建物です。建物2が該当します。

II群 主軸方向が北から西に約10°振って建てられた一群です。建物1・5が該当します。

III群 主軸方向が北から西に約20°振って建てられた一群です。建物4・7～9が該当します。そのうち2棟(建物7・9)は、「田」状に柱が配置された総柱建物で、床を補強した倉庫として使用された可能性が考えられます。

IV群 主軸方向が北から西に約30°振って建てられており、建物3・6があります。L地区の東側を通る道路と方向が揃うことから、道路状遺構に関連した施設であると考えられます。

V群 主軸方向が北から西に約40°振った建物で、建物10があります。

(2) G地区の調査 (第4図)

G地区では、古墳時代の円墳1基、土壇墓3基などを検出しました。

古墳2 直径26.7mの円墳で、西側1/3は壊されていました。周溝は広い部分で幅5m程度あり、深さはおよそ1mを測ります。埋葬施設は削られて残っていませんでした。

土壇墓 古墳2の周辺では、周溝を持たず、地面に墓穴を掘っただけの墓(土壇墓)を3基検出しました。土壇墓1からは須恵器の杯・蓋・壺、土師器の杯などが出土しました。6世紀後半に造られたと考えられます。土壇墓2・3も出土した土器の年代から、6世紀後半～7世紀初頭の墓と推定されます。

3. まとめ

芝山遺跡・古墳群では、今回調査を行った2基を加えて、26基の古墳が見つかりました。古墳1は小規模ながら、須恵器や鉄製品が当時のままで出土したことから、当時の葬送の儀礼を復元するうえで重要な成果となりました。

L地区では奈良時代の掘立柱建物10棟を検出しました。その中には倉庫と考えられる総柱建物が4棟ありました(建物1・7・9・10)。L地区の近くで実施された過去の調査でも総柱建物が数棟見つかり、この周辺は倉庫群であった可能性も考えられます。芝山遺跡では、道路状遺構や方位を北に揃えた建物、西に振れる建物などが広い範囲で見つかり、今回の調査成果は遺跡を評価する上で重要な知見と言えます。

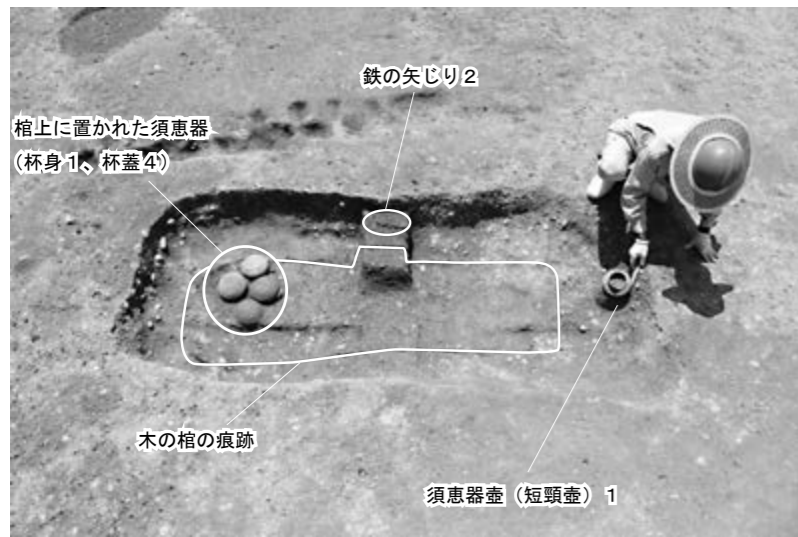


写真1 L地区古墳1の埋葬施設から遺物が出土した様子です。およそ1400年前の須恵器や鉄の矢じりが出土しました。(東から撮影)

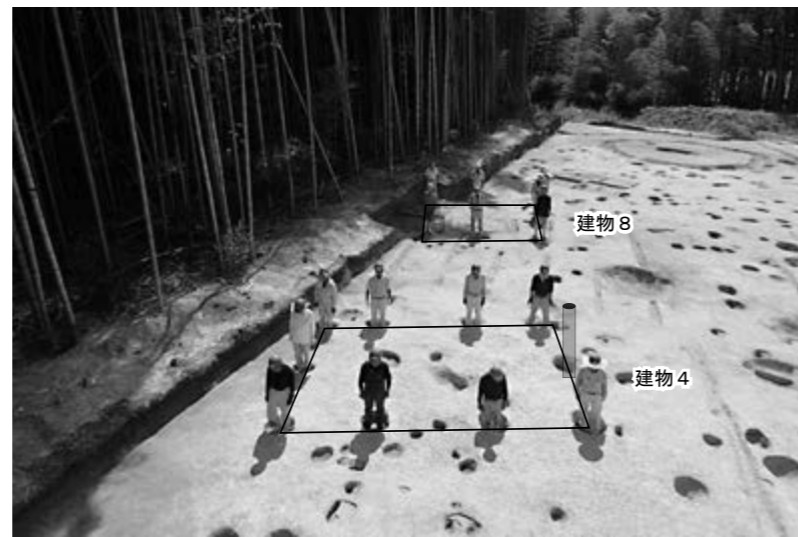
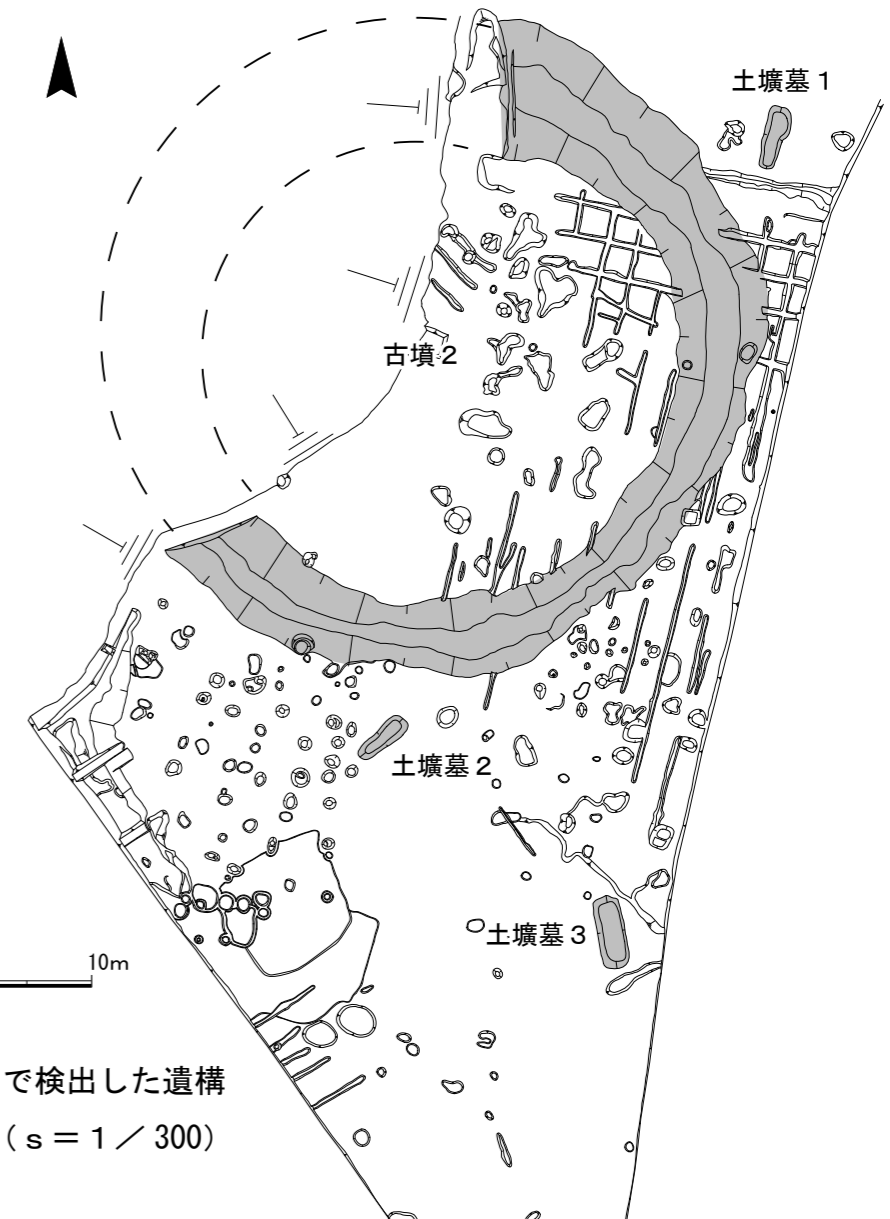


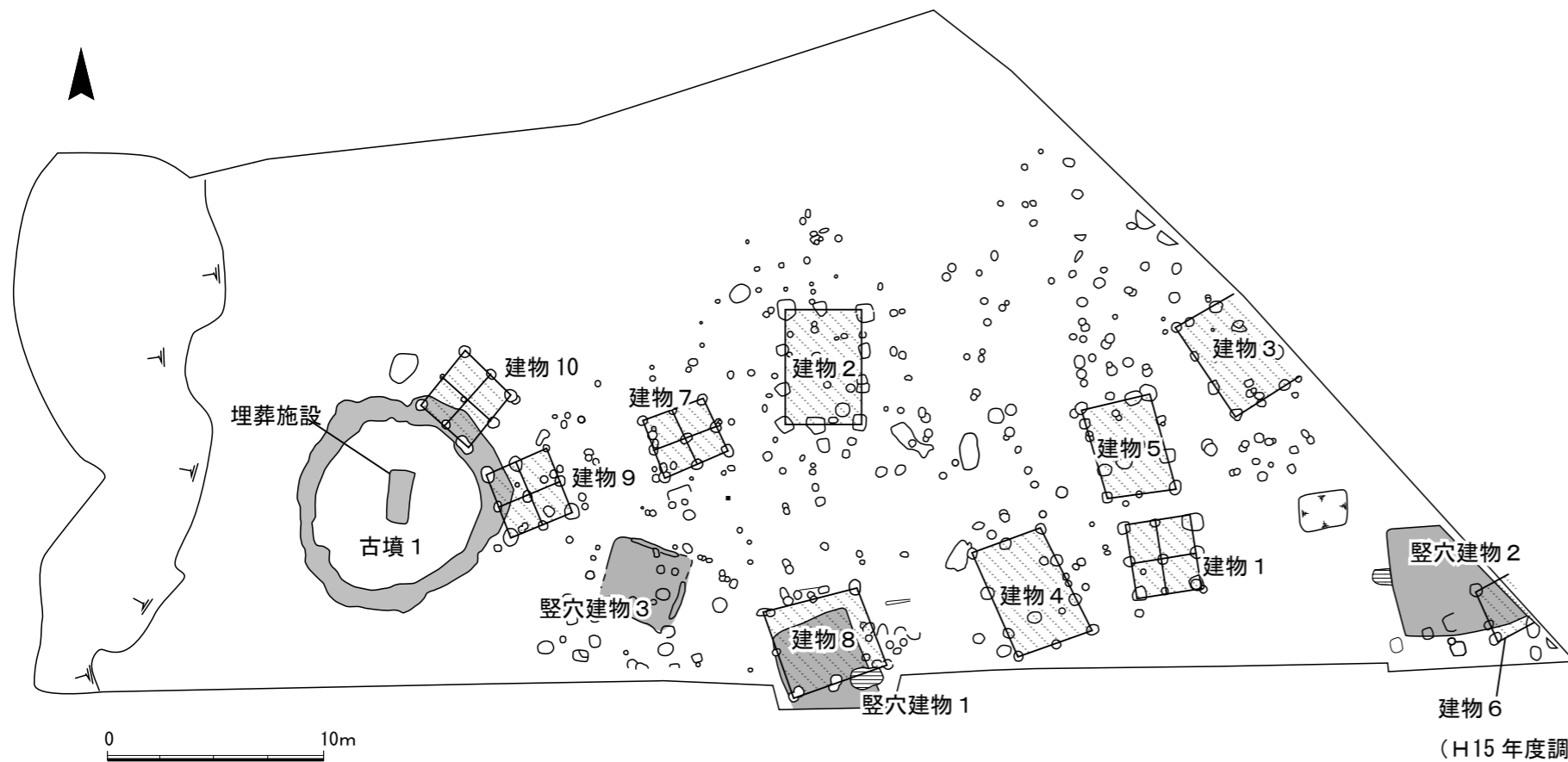
写真2 L地区建物4・8は東西に並んで検出されました。人が立っている所はもともと柱が立っていた穴です。(東から撮影)



写真3 G地区土壌墓1から土師器・須恵器が多く出土しました。(南から撮影)



第4図 G地区で検出した遺構 (s = 1 / 300)



第3図 L地区で検出した遺構 (s = 1 / 300)



写真4 G地区古墳2は、芝山遺跡・芝山古墳群で見つかった古墳の中で最大で、直径26.7mです。(北から撮影)

付表 芝山遺跡関連年表

